

The 2024 Conference on Artificial Life (ALIFE 2024) 参加報告書

広域システム科学系 池上研究室 D3 廣田隆造

2024年9月24日

広域科学専攻による国際研究集会出席者資金助成を受け、2024年7月22日から26日にかけてコペンハーゲンで開催された人工生命研究の国際会議 The 2024 Conference on Artificial Life (ALIFE 2024)に参加し、口頭発表を行った。

人工生命 (ALIFE) とは、我々を含む現在存在する「我々の知る生命 (Life as we know it)」ならざる「あり得た生命 (Life as it could be)」を構築することで生命システムの理解を深めることを指向する分野であり、Alife Conference は年に一度開催される当該分野における最大の国際学会である。この分野は高い学際性を特徴としており、会場でも機械学習・化学・数学から哲学まで含む多様なバックグラウンドを持つ参加者による発表が見られた。

私自身は、生態心理学におけるアフォーダンス (環境が生物に対して提供する行動の機会) の概念に関する理論的な困難を現代数学における圏論を用いた定式化によって解消する “The Reality of Affordances: A Category-theoretic Approach” という論文について口頭発表した。この論文は、200件を超える投稿のうち20件弱のみが選ばれる、参加者全員が出席する plenary session での発表となり、発表後は多くの参加者からフィードバックを得ることができた。またこの論文は Best Student Paper Runner-up Award にも選出された。圏論を用いたアプローチはこの分野においては (徐々に数を増やしつつあるが) 目新しいものであり、にもかかわらずこのように好評をもって受け入れられたことには、この分野の open-minded な気風をあらためて感じさせられた。

開催地となったコペンハーゲンは貴重な日照を満喫する時期にあり、港町ならではの開放的な空気もあってとても快適に過ごすことができた。ふと街を歩くだけで哲学者キルケゴールの銅像に偶然出くわすなど、歴史ある学問の街としての雰囲気も感じられた。

最後に、このような貴重な機会を与えてくれた渡航助成制度に感謝を申し上げたい。

